

コンビネーション339号

努力は結果につながる

函館チェスサークル・インターネット通信

2016年11月23日 発行

Ψ
チェス・オリンピアド参加レポート(5)
Ψ Ψ



バクーのチェスセンターにて



Ψ
コンピューターにも解析できない見事なプレー
Ψ Ψ

これまで山田弘平のオリンピアド参加レポートを掲載してきました。生徒たちが記事を読むのか疑問もありましたが、読めば必ず勉強になると思い、多くの誌面をさきました。また、HPを通して全国のチェス・ファンにも読んでもらえるかもしれないという希望もあります。

函館チェス教室の顧問、山田弘平の記事だからというのがありますが、それ以上に上級者がどう考えてチェスを指しているのかが分かりやすく書かれていると思ったからです。いかがだったでしょうか。

(感想をお待ちしています)

いよいよレポート最終回は本人いわく「ベストゲーム」です。コンピューターにも解析できない見事なプレーで勝利した最終局。このゲームでFMタイ

トルを獲得しました。ぜひ青色のメインラインだけでも盤にならべてみてください。

これを読む日本のチェス・ファン、君が次の日本代表になりますように！

Ψ
すべて出せたという手ごたえ

Ψ Ψ

最終戦のメキシコ戦は、やや意外な組み合わせになりました。

メキシコの2番ボード、Capo Vidal (ヴィダル) はレーティング 2314 ながら、ここまで7試合指して全勝しており、パフォーマンス・レーティングが 3000 を超えています。このままのパフォーマンスであれば、2番ボードのボード賞は確定であり、日本チームは彼を温存してくるものと思っていました。ところが、深夜に発表されたボードペアリングにおいて、メキシコは何と1番ボードのGMを温存し、Capo Vidal を1番ボードで小島に当ててきたのです。

実はボード賞を取るためには最低 8 試合指していなければならないため、Capo Vidal は日本戦に出場する必要があったのでした。そこで、メキシコ側が白番となる1番ボードにCapo Vidal を配置し、全勝を狙う作戦を取ってきたのです。

一方日本チームは、FM 獲得チャンスのある自分が白番を持つため、唐堂を外して、小島、南條、Alex、山田というオーダーで最終戦に挑みました。全員がマスターであるメキシコチームですが、GMを温存したために、1番ボード、2番ボードでは日本のレーティングの方が高くなりました。もちろんメキシコとしては、レーティングで大きく上回る4番ボードをきっちりとして、1、3番ボードで1.5ポイント取れば勝てるという算段だったでしょう。

さて、その4番ボードのゲームは、今大会における自分のベストゲームになったと思います。

単に重要なゲームで勝ったからということではありません。このゲームには、自分がオリンピアドに向けてやってきたことをすべて出せたという手ごたえがあったからです。現在の自分から見ると、多少のミスもあったかなとは思いますが、それはオリンピアドからこのゲームを振り返るまでの間にも、成長していたからということでもあります (笑)。

数年間分の成果ですから、ここに全部書くのは難しいの

ですが、少しでもそれが伝わるようなことが書ければ良いなと思います。

♟ ♟

白：山田 弘平

黒：フロレス・ゲレロ (Flores Guerrero)

2016年バクー、アゼルバイジャン11R

1. d4 d5 2. c4 e6 3. Nc3

自分の相手となったのは、レーティング 2345 の IM、Flores Guerrero です。1997 年生まれと若いプレーヤーであり強敵です。

3... f5!? (図1)

図1 白番 途中図



彼が黒番で得意とする、ダッチディフェンスです。特に黒のポーンが白マス (b7, c6, d5, e6, f5) に並ぶ形は、Stone-wall Dutch (ストーンウォール・ダッチ) と呼ばれており、とても手がたいオープニングです。黒は、ポーンで「壁」を築くことによって白のセンターでの動きを牽制(けんせい)し、スキがあればキングサイドから攻めていこうという定跡です。

一方で、c8 のビショップは自分の壁に動きをはばまれているため、このピースが残ったままの展開は黒が面白くありません。前日からこの形に対してどう戦うか、色々考えました。この大会に向けて用意してきた様々な引き出しから、強敵に勝つための策(さく)を探します。

そうして自分が出した結論は「相手になるべくいやな思いをってもらう」ことでした。具体的にどうやって指すか、ということではなく、もう少し上の視点の、かなり抽象的な戦略です。

いやな思いをってもらうといっても盤外でいやがらせをするわけではありません(笑)。もう少し具体的に言う

と「黒のプランは見つけづらいが、白のやることはわかりやすい」局面を目指す戦い方をしようということです。

この戦い方は、今まで大会やトレーニングで試してきた指し方の中でも、上手くハマればかなり高い確率で勝てる指し方でした。問題はこの戦い方は非常に難易度が高いということです。そのような局面をどうやって実現するか、序盤から手探りで進めていきます。

4. Nf3 c6 5. Bf4 Bd6 6. e3!?

ぶつけてきたビショップを取らずに様子を見ます。

黒からこのビショップを取る 6... Bxf4 は 7. exf4 Nf6 8. Bd3 o-o 9. o-o で、次に Re1 から e5 や e6 のマスを狙う手が厳しくなります。f4 のポーンがあるために、黒からは e5 と突いてこの弱点を解消することはできません。かと言って、Nf6-e4 とルークの利きを防ぎに行こうとしても、将来的に f3 と突いて追い返すことが可能です。黒もこのビショップは取らずに、しばらく駒組みを続けます。

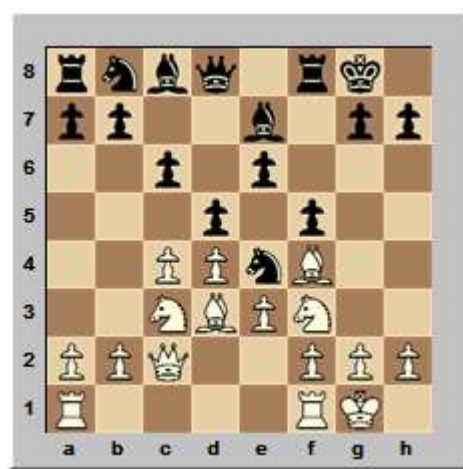
6... Nf6 7. Bd3 0-0 8. 0-0 Ne4 9. Qc2

白の方も自然に駒組みを続けますが、黒は伸ばした f5 のポーンを活かし、Ne4 と入り込んできました。

この形はなかなかくずすことができず強力ですが、一方でクイーンサイドのピースの展開が遅れています。これらのピースをどうするかはしばらく黒の課題になります。

9... Be7!? (図2)

図2 白番 次の1手は?



ところがこの局面で黒が選択したのは、展開したビショップを引く手でした。

基本的に、序盤で同じピースを2回触るのはいい手ではありません。この局面では黒はナイトを2回、ビショップ

を2回動かしています。黒はそのかわりに、取り残された f4 のビショップを将来的なターゲットとして残そうとしています。

一例をあげると、10. a3 Nd7 11. h3 (11. b4? は 11... g5! 12. Bg3 Nxc3 13. Qxc3 f4-/+ となって、ビショップを捕獲した黒が優勢です。) 11... Bf6 12. b4 Qe7 13. Rac1 g5 14. Bh2 Kh8 といった展開が考えられます。黒の展開はだいぶ遅れていますが、いつでも Rg8 から g4 と開戦できるため、白としても注意深く指す必要があります。

もちろんこの展開を選んだとしても白が悪い理屈はないのですが、できれば選びたくありませんでした。自分が目指したのは、あくまで自分だけが明確なプランを持っている局面です。ここは序盤の勝負所と考え、持ち時間を投入して策を練ります。

次の一手は、指し手の善悪は別にして、このオリンピックで指した中で最も印象深い一手になりました。



11 ラウンドの山田弘平 (右)

10. Bxb8!?

展開しているビショップと展開されていないナイトを交換して、ビショップペアを放棄する、常識から外れた一手です。(ビショップは2つだと3+3の6点でなく7点近くに評価されます) この手は観戦していた人からの評判もあまり良くなかったようで(笑)、実際コンピューターもそれほど評価していません。ですが、この手こそ、相手だけが難しい局面を実現するための手だと考えました。

白のねらいはいくつかあります。

- ① b8 のナイトを消すことで、白のナイトを交換の心配なく e5 に置くことができるようになります。白と違って f ポーンを突いてしまった黒は、このナイトをポーンで追うことができません
- ② g7-g5 からの攻めがビショップに当たるのを事前に回避しています。

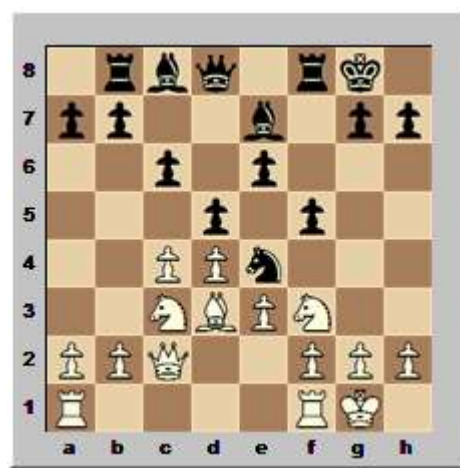
- ③ ナイトを消すことで、黒からの e6-e5 や c6-c5 の可能性を軽減しています。これにより黒が築いたポーンの壁は白マスに固定されることになります。

自分はこの③を利用して、黒の c8 ビショップを閉じ込めることをねらいに行きました。

白マスビショップの展開という課題を突きつけて、黒を悩ませることがいやがらせの第一歩です。一方白の方は、とにかくこのビショップを働かせないというプランにそって指して行けば良いため、手に詰まることはないはずだと考えました。

10... Rxb8 (図3)

図3 白番 次の1手は?



11. Ne2!

地味な好手です。この局面からナイトが1つ消えてしまうのは、白にとって損です。

このナイトは将来的に e2-f4 を経由して e6 にプレッシャーをかけたり、e5 に飛び込むナイトのサポートをしたりするためにとっておかなくてはなりません。

ナイト交換を避けながら、Ne2-Nf4 や Kh1-Ng1-Nf3-Ne5 のマヌーバリングをねらいます。特に Nf4 の筋がいつでもあるため、黒のアイディアの1つである Bd7-Be8-Bh5 がやりづらくなっています。

11... Nd6

相手はノータイムでナイトを引いてきます。Ne5 に対して Nf7 を用意した手です。白が長考して Bxb8 という変な手を指してきたせい、このあたりは相手にだいぶ精神的な余裕があるように感じました。

12. Rad1?!

将来的に d ファイルが空いたときの準備ですが、黒が c5 や e5 と突けない以上、d ファイルが開くのは e5 でのピース交換しかなく、深読みしすぎた一手です。Rac1、そして Rfd1 と回っておく方が自然だったでしょう。

12... Bf6 13. b3 g6

しかし、このあたりから黒の方も消費時間が増えていきます。g6 は f5 にひもをつけて、cxd5 に対して exd5 と応じるための準備です。

しかし、またしてもポーンが白マスに置かれたため、更に白マスビショップは出づらくなります。

14. Ne5

g6 を見てナイトを e5 に跳ね出します。e5 に白のポーンが残れば、c8 のビショップは更に使いづらくなっていきます。

14... Nf7 15. Nxf7

黒の交換に応じます。e5 にポーンを残すことを考えれば、f4 とついても面白かったでしょう。

15... Rxf7 16. Kh1

Ng1-Nf3 をねらいます。今の自分なら自然に Rc1 から Rac1 とするところですが、少しひねってでも Ng1-Nf3 として、将来的な Ne5 に期待します。

16... Qf8 17. Ng1 (図4)

図4 黒番 途中図



白は予定通りナイトを下げます。

この局面ではコンピューターの評価はほぼ互角であり、実際指している自分もいい勝負だと考えていました。ですが、評価値通りにはならないのが人間の实戦です。相変わらず黒には明確なプランがありません。

自分が黒だとしたら Misha が日本チームに何度も教え

ていた通り、弱点を作らないように少しずつ局面の改善を目指したでしょう。具体的には Rc7-Bd7-Be8-Bf7 などでしょうか。しかし、勝たなければいけない試合でこのように指すのは、相当な精神力が要求されます。

この局面で黒は大長考に入りました。最初のころの余裕は消え去り、周りのボードの状況を気にする時間も増えてきました。

17... g5?!

20 分の長考で指されたこの手が、この後の苦戦を生み出します。キングサイドで攻めを作り出そうという手ですが、f5 のポーンを弱めてしまったのが、後々効いてくることとなります。

18. Nf3 Qd6

白の Ne5 を防いで、次に先手で g4 をつくことを目指します。

19. Qb2 (図5)

図5 黒番 途中図



それでも Ne5 を目指します。ここでは 19. c5! も有力で、19... Qc7 20. Qc3 b6 21. b4 としておけば c6 の弱点が残るため白がわずかではありますが有利になったようです。

実はここが黒にとって最後のチャンスでした。

19... dxc4! 20. Bxc4 に対して f6 のビショップの効きを活かして 20... b5 21. Be2 c5! という手がありました。

この手に対しては 22. Ne5 とする予定でしたが、22... Rc7 23. f4 cxd4 24. Rxd4 Qc5 となれば、黒のビショップが復活してきそうです。ルークの働きは白の方が良いため、少し有利だと思っていたのですが、f6 のビショップもよく効いており、黒も十分戦える形でした。

19... g4?

実戦では、黒はキングサイドから動いてきました。しかし、このアイデアではピースの働きを改善することは

きず、逆に新たなターゲットを作り出してしまいます。

20. Ne5 Rg7 21. f3!?

黒のピースが働かず前に、黒の伸ばしてきたキングサイドを逆用しに行きます。

このあたり、自信はあったのですが、唯一の懸念は持ち時間でした。序盤の長考が響き、いつもよりも持ち時間が少なくなっています。暴走しないように慎重に読みながらも、このあたりから開戦の機会を伺います。

21... g3

黒も白のルークを働かすまいと、ノータイムで突き返してきます。ただ、21... gxf3の方が後々弱点を残さないため、良かったのではないかと思います。

22. h3 b6 23. Rc1

22. h3 について、将来の f4-Rf3 をねらいます。さらにいつでも e4 からセンターを崩す手があり、黒はいよいよ動くしかなくなりました。

本来ならばできるだけ態勢を整えておきたい局面のはずですが、白からの攻めが早いと考えた黒は、ついに b6 と動いてきました。白もそれを見て Rc1 と、弱くなった c ファイルにねらいを切り替えます。

24... c5?

図6 白番 次の1手は？



黙っていても cxd5-Rc6 があるため、黒はついに局面を開きにきました。ですが、自分はこの手を見た瞬間に、この試合で初めて、はっきりとしたチャンスが来たと思いました。

ここは悪くても 23... Bb7 と c6 のマスを守っておくところで、以下、24. cxd5 cxd5 25. f4! の局面は、相変わらず白マスビショップの働きが悪く黒苦戦の局面ですが、決め手を与えずに粘り続けるのが正しい指し方だったでしょう。

ここまではずっと我慢比べでしたが、ここで先に動いた黒を迎え撃つ良いプランがあります。

24. cxd5! exd5

すかさず cxd5 と取ったのが好手で、c ポーンを進めてしまった黒は cxd5 と取り返すことができません。24... Qxd5 とする手は、25. Bc4 Qd6 26. f4 Bb7 27. dxc5 bxc5 28. Rcd1 Qe7 に 29. Qe2! としておいて、次の Rd7 や Nd7 を狙えば、白がはっきり優勢です。黒は自ら崩してしまった c ファイル、d ファイル、g ファイルをすべて守り切らなくてはなりません。コンピューターによれば、ポーンを取り返さない 24... Bb7! が唯一バランスを保つ手だったようですが、25. Nc6! Bxc6 26. dxc6 とポーンを返してしまえば、陣形の差で白が指しやすい局面です。

そこで黒は exd5 と取り返してきました。次の白の手はノータイム。とても味の良い一手です。



チェス選手のポスターがはられたバターのチェスセンター

25. f4!

この手を指せて手応えを感じました。Bxb8 を指すときに思い描いたその理想図がようやく実現したのです。

黒のポーン (f5, g3) は固定されて白のターゲットになり、c8 のビショップも白マスに置かれたポーンが動きを制限しています。そして少しずつプレッシャーをかけ続けた結果、黒のピースは協調性を欠いています。そしてねらい通り、白には指したい手がたくさんありますが、黒はそれらをまとめて防がなくてはなりません。

黒も少し前から難しい局面になってしまったとは感じていたはずですが、ここに来ていきなり自分だけが悩まされる局面になり、動揺を抑えきれないまま指し続けているようでした。これは悪いときに一番やってはいけないことです。苦しい局面だからこそ、相手のねらいをきちんと検討し、態勢を立て直すべきでした。

25... Be6? (図7)

敗着級のブランダー（ポカ）です。とは言え、唯一可能な手は 25... Be7 と耐えるだけの一手ですから、かなり指しづらかったでしょう。

対象的に次の白の指し手は、とても慎重な一手です。

図7 白番 次の1手は？



26. Qb1!

これで弱まった f5 のポーンが助からなくなりました。

クイーンをキングサイドに持っていく可能性も考慮して 26. Qc2!?! も良い手ですが、自分は黒に Rc8 などの可能性を万が一にも与えたくありませんでした。いずれにせよ、f5 のポーンが落ちてしまえば、後は慎重に指すだけです。

26... Bf7

黒はこの手に 11 分考え、持ち時間の差も急速に縮まっています。しかし、相手は指し手を考えているような雰囲気ではなく、しきりに隣のボードを気にしていました。

27. Bxf5 Bh5 28. Qc2

c8 のマスを抑えたので、ワンテンポ遅れてクイーンを c ファイルに移動します。黒は c5 のポーンを守るためには Rc7 しかありません。g7 のルークを移動させるのが白のねらいです。

28... Rc7 29. Bg4! Bxg4 30. Nxd4 Bg7 31. Ne5 Rbc8 (図8)

黒は更に 12 分使って Rc7 と指してきましたが、g ファイルへの利きがなくなったのを見計らって、Bg4 と交換を挑む手が好手。ピースを換えて局面を単純化しに行きます。交換が終わり、e5 に強力なナイトだけが残りました。

ここが最後の仕上げです。

図8 白番 次の1手は？



32. Qf5!

色々な勝ち方はあるところですが、c ファイルからの反撃を狙う黒の望みを、この一手で断ち切ります。

32... cxd4? には 33. Qxc8! Rxc8 34. Rxc8 Bf8 35. Rf3! h6 (このポーンをつかなければ、Rxd3 がメイトになります) 36. Rxd3+ Kh7 37. exd4 で Misha いわく「簡単な勝ち」です。

32... Bf6 33. Qg4+ Kh8 (図9)

図9 白番 次の1手は？



Kh8 を見て、ようやく周りを見る余裕ができました。時計に 4 分残っているのを確認して、となりを見ると小島がすでに勝ちを決めており、南條、Alex も互角以上の形勢で、何とメキシコ相手に勝利目前の形勢だったのです。

試合を終えて自分の試合を見ていた小島は、自分がここで考え込んでいるのを見て次の一手に気づいていないのかとヒヤヒヤしたそうですが(笑)、自分としては次の一手をすぐ指してしまうのは、何となくもったいない気分でした。次の一手はこの素晴らしいオリンピックと、この劇

的なマッチと、そして自分にとって最高のゲームをしめくくるのに最もふさわしい手だと思っていましたから。

34. Qxc8+! 1-0

最後の決め手はクイーンサクリファイスでした。

34...Rxc8 に 35.Nf7+ がキングとクイーンの両取りとなります。Ne3-Ne2-Ng1-Nf3-Ne5 と、少しずつパワーアップしてきたナイトが最後まで力を発揮してくれた、今大会、自分のベストゲームの完成です。



バターのバーにて

強豪メキシコに勝利、FMタイトル獲得

日本に帰ってからも、「強かったね」、「感動しました」と自分のプレーをほめてもらえる声があったことに驚きました。

リザインの後、相手の IM はショックのあまり、自分の棋譜にサインした直後に、審判が呼び止めるのも聞かず立ち上がってどこかに行ってしまいました。自分の方は、棋譜にサインをした後、後ろで見てくれていた Misha と抱擁を交わしました。この試合で、Misha のコーチとしてのスキルを自分が盤上で証明できたことも、嬉しかったことのひとつです。

そして、小島と自分に続いて南條が勝利したため、強豪メキシコに 3-1 で勝利しました。この勝利は大きく、最終順位は何と 68 位。参加国が 100 カ国を超えたこの 20 年では最も高い順位となりました。もちろん、過去の高い順位に比べれば当たりの違いも大きいのですが、何にせよこの順位は日本のチェス界が確実に成長している証（あかし）になったのだと思います。

できることならば、次の大会ではベストメンバーをそろえて、十分な準備をして戦うところが見てみたいと思いました。それならば、次はもっと上へ行けるでしょう。

自分は、この勝利により 9 試合中 6 ポイントをとり、同

じく最終戦を勝った星野華怜（かれん）と一緒に、FM タイトル獲得となりました。彼女もまた、最終戦を素晴らしいパフォーマンスで勝利しました。男女ともに、日本のプレーヤーのレベルが着実に上がっていることを実感できる結果だったのではないかと思います。

チェスは強くなればなるほど楽しいもの

ここまで 5 回に渡って、自分のオリンピアードのゲームを解説してきました。最後に皆さんに伝えておきたいのは、努力は結果につながるということです。

自分は、自分の実力を固めるために数年間、この大会で結果をだすために半年間、毎日少しずつトレーニングを続けてきました。上手くいかなくて落ち込むこともありましたが、新たな発見をして嬉しかったこともありました。そうして少しずつ培っていった技術や経験を、オリンピアードという大舞台で披露できたことはとても大きな自信になりました。今大会のゲームは、紹介しなかった試合も含め、どの試合も思い出深いゲームです。

努力すること、強くなること、上に行くことは苦しいこと、と思う人も多いかもしれませんが、ですが、努力した分は必ず返ってきます。Anish Giri (GM アニッシュ・ギリ) も言ったとおり、「チェスは強くなればなるほど楽しい」ものです。



公園の大きなチェスセット

努力するチカラは自分だけの武器

自分も、このオリンピアードで足りない部分をいくつも見つけて、またどう強くなるかを考える日々を送っています。自分にとっては、この考える時間が毎日の楽しみです。今はまだ道筋がみえませんが、少しずつ試して考えて、また試して、・・・それを繰り返しています。

皆さんにもぜひ、努力する楽しさを見つけてほしいと思います。

チェスの知識は本を読めば手に入るかもしれませんが、努力するチカラは自分だけの武器です。そのチカラはチェス以外の場面でも必ず役に立ちます。そして、その武器を駆使して勝ったときの喜びも、いつかぜひ味わってください。今回のレポートが、その一助になれば嬉しいです。長いレポートを読んでくださり、ありがとうございました。

次は皆さんが日本チェス界をさらに押し上げる番だと期待しています！

(文：CM山田弘平 文中敬称略)



チェス・オリンピアド公式HPより

チェス・オリンピアド参加レポート まとめ

- (1) 2ラウンド、対スリランカ戦
黒番 Priyankara Chamil (2014) 1-0
King's Indian Defense
[コンビネーション334号](#)
- (2) 4ラウンド、対サントメ・プリンシペ戦
白番 Adelino Semedo (1716) 0-1
Queen's Gambit Declined
[コンビネーション335号](#)
- (3) 8ラウンド、対ザンビア戦
白番 IM Chumfwa Kelvin (2288) 1/2-1/2
Sicilian Defense Najdorf variation
[コンビネーション336号](#)
- (4) 10ラウンド、対アゼルバイジャン3軍戦
黒番 FM Abdulla Gadimbayli (2319) 0-1
Slav Defense
[コンビネーション338号](#)
- (5) 11ラウンド、対メキシコ戦
白番 IM Flores Guerrero (2332) 1-0
Dutch Defense Stonewall Variation
[コンビネーション339号](#)

宿題解答

第1問 1. Rd8+ Rf8 2. Rxf8 # (2手メイト)

第2問 1. Bh6 (次の Rxf8 # がふせげない)

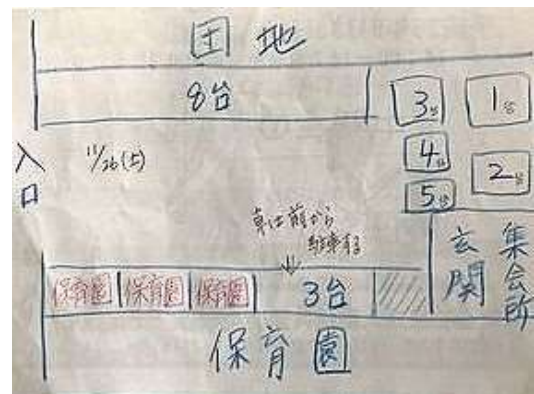
第3問 1. Bxf7+ Kh7 2. Qxf8 (ほとんどメイト)

第4問 1. g5+!! Kg6 2. Bh5+ Kxh5 3. Qxg7 (白勝)

函館チェス大会について 連絡！

当日の駐車は以下のようにしてください！

(あんざいクリニックの駐車場もOK)



いよいよ11月26日、27日の土日は函館チェス大会です。ホームページに決定した要項、参加者リストを掲載しました。(参加者は24日決定)

当日はクロックとセット、筆記用具を忘れずに持参してください。また昼食、ドリンクは各自持ち込みです。

ご協力、よろしくお願いします！

【速報！】

札幌チェスクラブから

杉本公一さんの参加決定！